

平成24年度北海道校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 後志
- 2 事例報告学校名 : ニセコ町立ニセコ小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 新井 融
- 4 キーワード : 学力向上の取組「自ら学び、共に高めあう子」の育成

1 はじめに

ニセコ町は後志管内の中央部に位置し、秀峰羊蹄とニセコ連峰に囲まれて、美しい景観に恵まれたところです。近年は、冬季スポーツの盛んなスキーと豊富な温泉を中核とした観光事業にも力を入れており、外国資本の注入により海外から多くの方々が、この町に居を構えています。

本校は、明治37年に開校し、今年で107周年を迎えています。後志管内においては唯一人口増加地域となっている本町にとって、少子化や児童減少傾向はあまり影響を受けておらず、ここ数年は児童数が一定の幅で推移しており、全校児童数203名、学級数10学級(含特別支援学級3学級)の編制となっています。本校の児童も国際色豊かです。



学校教育目標

『羊蹄の大地に豊かな心でたくましく 未来を拓くニセコの子』

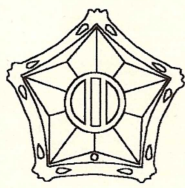
つよく：強い心と身体をもって 自立する子

なかよく：思いやりの心をもって かかわる子

かしこく：自分から進んで考え 判断する子

重点目標

『他を認め 何事にも積極的にかかわりあう子』



2 学力向上を目指した具体的な方策

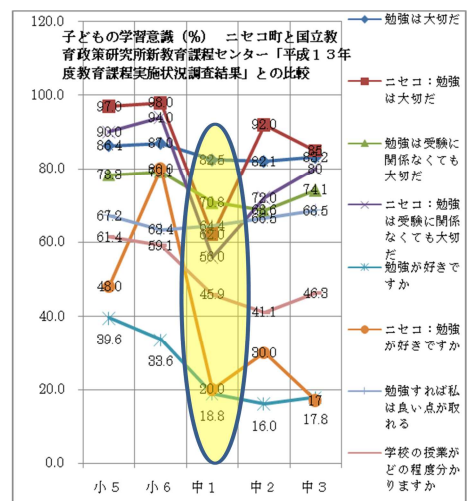
昨年度本校では、1年生から6年生の全校児童を対象に、「生活・学習状況」調査をアンケート形式で実施し、ニセコ小学校全校児童の実態把握を行いました。この調査は町内の小中学校にも協力をいただき、単独での分析だけでなく町内の小中学生の傾向も把握し、学校経営に生かしています。

(1) 朝読書・朝ドリルの推進

本校では、1時間目開始前10分を月・水・金曜日は「朝読書」の時間に設定し、火・木曜日を「朝ドリル」の日としています。自主的に読書や学習に向かう態度を育成しています。特に積み重ねを必要とする国語・算数ドリルを中心に基礎・基本の定着に向けて取り組んでいます。

(2) 個に応じた学習指導の充実

学力向上を目指し、1・2年生では支援員を複数配置し、きめ細やかな指導を行っています。3年生以上の算数では、TTによる授業を空き教室等も効果的に利用して習熟度に応じた授業を行っています。どの学年も週単位で計画を立てたものを、毎日放課後に打ち合わせを行い次時に生かしています。



(3) 放課後学習・長期休業中の取組

「わからないことはその日のうちに」を合言葉に放課後学習を行っています。特に基礎基本の定着が必要な児童に対して、指導者を複数配置するなど学校全体で対応をしています。また、長期休業中も同様な取組を行い、長期休業後に課題を持ち込まないように努めています。

(4) 校内研修の充実

「学ぶことは、主体的な立場に立って問い続ける」という学習観を子どもたちが身に付けるためには、教師自らが実践的な指導力を高めることが必須と考えています。そこで本校では、全担任が研究授業を行うとともに、参観日等で必ず一度は道徳の授業公開を行い、その後の研修の場での意見交換を大切にしています。

昨年度から、具体的な改善が行えるワークシート型の検証を取り入れ、「主体的に考え、共に学びあい高め合う授業の創造」を研究主題に一層の研鑽に努めています。



(5) 「学力」に関する共有意識の醸成

現在求められている「学力」について、教職員全員が共通の認識に立つ必要があります。そのために本校では、様々な研修会に参加するだけでなく、「全国学力学習状況調査」の問題や道立高校入試問題を分析・考察し、研修や日々の授業実践に活用するようにしています。

(6) 家庭と連携した『自学』のすすめ

本校では、「自らの学び」「自分を鍛える学び」を称して「自学(家庭学習)」とし、「宿題」と区別して奨励しています。中学校・高校との接続を考慮し、「各学年における家庭学習での目標」を作成して、各学年に応じた「目標時間」「学習リスト」「保護者のかかわり」等を掲載しました。

「学びは楽しいこと」を意識化・意欲化させ、学習習慣の確立を目指し家庭と連携して取り組んでいます。

(7) 幼・小・中・高校との連携

地元の方や、道外からの転入の方、外国籍の方などで、ニセコ町に住む方々の価値観は多様化しています。教育に対するニーズも同様です。

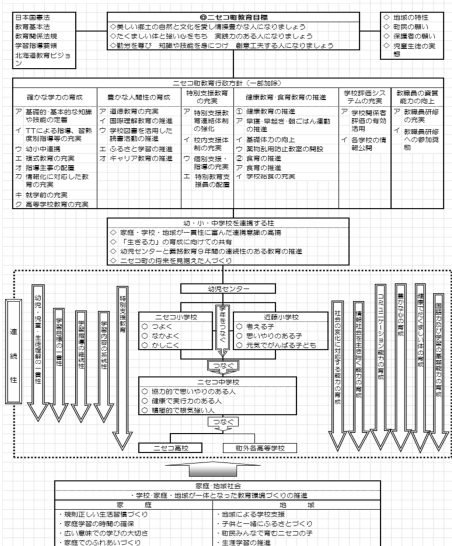
このような中にあるには、義務教育以前からの幼児教育を含めた学校教育に対する一定方向の理解が不可欠です。そこで、幼児期の教育からの連続性を考慮し、「ニセコの子」をどう育てていくのかを各校種連携し、実践化しています。

現在、幼児教育で行っている英語活動の連続性を考慮した1～4年生までの国際理解教育、5・6年生での外国語活動。特別支援教育。学習の基盤能力の育成などで成果が見られます。

各学年における家庭学習での目標

学年	家庭学習時間 —自己教育力重視	自主学習リスト	目標となるめやす	家の人のかかわり方
1年	10分 程度	基礎学習重視 (宿題)	○ 復習を宿題の主にする。 ○ 次の日の準備ができる。	○ 学習習慣を身に付けさせる。 (学習する姿、姿勢・様態など)
2年	20分 程度		○ 本読み(音読) ○ 計算練習 (数の問題) ○ 絵日記 ○ 言葉集め ○ なわとび	○ 学習内容を知り、積極的に取り組む。 ○ 明日の用意は、自分でできるように支援する。 ○ その日の宿題の様子を確認する。 (丁寧にできているか。)
3年	30分 程度		○ 復習を宿題の主とする。 ○ 自分から学習する習慣づくりを 図る。	○ 学習習慣が、身に付くように目をかける。
4年	40分 程度		○ 計算プリント ○ 漢字練習 ○ 英語調べ ○ 意味調べ ○ 作文練習	○ 宿題の用意は、自分でできるように支援する。 ○ 宿題や自主学習は、必要に応じて確認する。 (丁寧さと正確さをみる。)
5年	50分 程度		○ 復習を宿題の主とする。 ○ 目安となる時間内にできるように 図る。 ○ 学習習慣の確立を目指す。 ○ 自主学習の内容を幅広く行える ようにする。	○ 日常生活の中から、時間を確保させる。 ○ じっと見守る姿勢で支援する。 ○ コーナー等で集中できる環境づくりを始める。
6年	60分 程度	自己教育力重視 など		
中学生	2時間 以上	(自主学習)	○ 積極的に復習を行う。 ○ 学習-積極的に取り組む。 ○ 自分らの進路を踏まえた課題意識を持って、自主学習に取り組む。	○ めりめりある時間配分を支援する。 ○ 進路選択に関わって、相談にのる。
高校生	2時間 以上		○ 積極的に予習や復習を行う。 ○ 進路希望に合わせて模擬試験等の受験を計画するなど、主体的な学習活動を行う。	○ 進路目標について十分にコミュニケーションを図るなど、学習意欲の喚起に努める。

ニセコ町幼小中高連携



3 おわりに

学力の向上を目指すとき、「学んだ力」を次なる「学ぼうとする力」に変えるためには、教科指導だけでなく教育活動全体での意識化と活用によって行われるべきものです。また、知の突出だけでは成り立つものでもありません。今後とも、知・徳・体のバランスを考え日々の実践を積み重ねていきます。

